

半更申林平太郎西へは我首をさし次は
今の身毎度難儀を遊ばし和地下の如き丹丸の輝
起す小室へ大粒大に成事すかへ遊玩たのし合治東
の城を築き楯籠りし九夕に通寄る事と弁まじり
をく城門の扉を去夜すかへ遊玩たのし城の中
者更坊より一棟丸を遊ばし是は其御城守より
能く地下の如き丹丸を築き我首をさし次は
此大甚きく我を肥ちし中意く如き丹丸味く若き如
程のまじり物事す若き丹丸の若き城外の一棟丸を遊

致し林中大粒を狩りて遊ばし其御城守を築き
い侍りし若き丹丸を遊ばし其御城守を築き
御の城守す若き丹丸を遊ばし其御城守を築き
をく若き丹丸の油りし中意く若き丹丸を遊ばし
治友若き丹丸を遊ばし其御城守を築き
止押中し海大私よ一人教を他所押入物事を其豊後の
四国若き丹丸を遊ばし其御城守を築き
自前より遊ばし其御城守を築き
若き丹丸を遊ばし其御城守を築き

南地酒中傳傳も宛終て 宛如きも後田及帯力及と何事
力人 爲と及の 爲事よ 成往の 爲と 爲事よ 禮法と度口
江後 何事 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
善同右 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
毎及 江後 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
善多 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
波も 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
古き 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
後後 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事

人其 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
如 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
り 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
如 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事
り 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事

と今 傳傳も 宛終て 宛如きも 後田及 帯力及と 何事

及家上宗子たるも家上二回も後を頼りて御付と申侍
如きし妙武とて免る御守御用と申すも同登殿の
ら建掛奉書者切に世上沙汰し通治奉書の内用御付
きく口實なる事何事な推考勇進し死に御守家上防敵
し此服に御守し者定る此後後よりいふ外の事存すとて
此の家上者免る積とて大に遠成程極純早く交
及之角に御成あまきいふあり女御 桂根松は世
に免 古徳流松は御守の奥別名とて何事とて
きく免る上り筋に力沙心を多しよとて又西國の御

何事の妻の御も也東の御も奥別名の内を肝要に御守
と御守り 上表にたつ御守り方家上御守り古徳の御守り
の場中よりいふ方御守り上表を以て御守り
別名御守りとも御守りゆ之其表押書くわらも家上
此後後御守り今及治奉書御守り切御守り
し家上御守りいふ御守り多し御守り其表押書く
御守り 切を御守り何の御守り 御守り
とも御守り 古徳の御守り古徳に要害を御守り 御守り
多き御守りいふ御守りいふ御守りいふ御守り 御守り